

ビーチバレーのため全国各地飛び回っています！ ～大会のあいさつから砂質の交渉まで～

こんにちは、川合俊一です。今回は、私が会長として行っている仕事を紹介したいと思います。会長の仕事として皆さんが思い浮かべるのは、大会のあいさつや表彰をするってことくらいでしょうか…。もちろんそれも大切な役目で、いろんな大会に顔を出していますが、私が行っているのはそれだけではありません。

日本のビーチでバレーをすると、黒い砂が体にくっつく印象があると思いますが、カリフォルニアのビーチは、砂が本当にサラサラなんです。そういうビーチバレーコートを増やしていきたいというのも、私の願いの一つ。

そこで先日、山口県周南市にある黒髪島（くろかみじま）で採れる石からビーチスポーツに適したいい砂ができるという話を聞きつけて、早速、視察に行ってきました。ビーチバレーのコートに使用される砂は1種類だけでなく、何種類かの砂をブレンドするのですが、一口に砂といっても、大きさも違うし、形も違う。その砂の質をもっと良くしてもらうためにお願いをしてきました。こういった視察や交渉も私の仕事の一つです。

今の世の中、はだしになるのは、ほとんど家の中しかないでしょう。砂の上をはだして歩くと本当に気持ちいい。なので、はだして遊び回れるビーチがどんどん増えていけばいいと思います。ですが、たとえいい砂と場所があるビーチでも、そこに住んでいる人や、使う人がゴミを捨てたりしていたら、そのビーチでは遊べない。はだして遊べるイコールゴミが落ちていないということ。ビーチは、そこに住む人、使用する人の心意気そのまま反映されるのです。

そんなすばらしいビーチの一つをご紹介します。9月末に新潟で行われた国体のビーチバレーコートです。国体のビーチバレーは正式競技でなく、公開競技だったのですが、地元チームが優勝したこともあり、試合は大いに盛り上がりました。そのビーチでは、地元の方が朝散歩をしながらゴミを捨ったりすることが、当たり前のように行われているそうです。あまりに感動したので、閉会式でこのビーチはすばらしい！ぜひコートを残してください!! と熱く語ってしまいました。

ビーチバレーはまだまだこれからのスポーツで、宣伝もしていかなければいけないし、もっとビーチバレーに興味を持ってくれる人も増やしたいし、協力してくれる人々も見つけていきたい。あと、コートも増やしていきたいですね。野望が尽きることはありません。私が会長になったからには、これからもビーチバレーのため、精力的に活動していきますよ！



日本ビーチバレー連盟
川合会長の

砂浜の野望

すなはま
の
やほり

何かと話題の多いビーチバレー界で、その発言にいつも大きな注目が集まる川合会長。ビーチバレーの魅力から新聞をにぎわせたあの発言の真意まで、ビーチバレーのあらゆるトピックスを川合会長が熱く語る！

川合会長の
今月の注目選手

周囲の度肝を抜いたデビュー
ブラジル女子を思わせる潜在能力

女子のビーチバレーからどんどん強い選手が出てきているけれど、そんな中でこれから注目してほしいのは、清江明香（産業能率大1年）。昨年マドンナカップ（女子ジュニアの大会）で優勝して、今年は一時、菅山かおると組んだことでも注目された選手。清江を最初に見たとき、ジャンプサーブをパンパン打っていて、関係者がみんな驚いた。最初からそんなにできる選手はいないので、これからどう伸びていくかがとても楽しみ。ビーチバレーは経験が重要だから、これからたくさん経験を積んで、ブラジル女子のような力強い選手になってほしいね。清江の今後に注目です！



PROFILE
川合俊一 かわいしゅんいち

新潟県出身。日本体育大学卒。大学時代から全日本のメンバーとなり、絶大な人気を集める。現役引退後、ビーチバレーの魅力を知り、アメリカのツアー・トーナメントにも参戦。帰国後は、ビーチバレーの普及に奔走し、さまざまな活動を行う。2007年4月より日本ビーチバレー連盟会長を務める。日本ビーチバレー界の第一人者。